

2022年度 入学試験問題



(60分)

〔注意〕

- ① 問題は□～□まであります。
- ② 解答用紙はこの問題用紙の間にはさんであります。
- ③ 解答用紙には受験番号、氏名を必ず記入すること。
- ④ 各問題とも解答は解答用紙の所定のところへ記入すること。
- ⑤ 各問題とも特に指定のない限り、句読点、記号なども一字に数えること。

西大和学園高等学校

国語訂正

問題冊子12ページ

大問二

問五

選択肢

ウ

(誤)

：震災後の合いを生んだ：

(正)

：震災後の助け合いを生んだ：



一 次の文庫を読みて、あとの問題に答へよ。

「コンテンツ」という言葉があります。音楽や映画といったエンタテインメント表現を指して使われることが多い言葉ですが、書物や放送番組、インターネットで見聞きすることができるさまざまな情報も指しますし、最近では大学の「コウギ」でさえ「コンテンツ」と呼ばれることが少なくありません。大雑把にいえば、「情報のひとまとまり」くらいの意味で広く使われている言葉です。

「コンテンツ」という言葉が日本語に定着したのはまだ古くことではありません。新聞記事データベースなどで調べてみると、「コンテンツ」は、90年代なかば頃に日本語の空間の中に急浮上してきた言葉だとわかります。それまでの「作品」や「樂曲」、「番組内容」といった言葉をひとまとめに塗り替えるように、「コンテンツ」という言葉は流布しました。

言葉の変化とは、單に「同じものを違う言葉で指すようになった」ことではありません。一つの、あるいは複数の言葉が別の言葉にとじつかわられるとき、その背景には社会の「ものの見方」の変化が横たわっています。言葉の変化は社会の変化です。

「コンテンツ」という言葉の浮上は、社会における文化や知識をとらえる枠組みの変化を示しています。それをもたらした要因の一つはインターネットの社会への普及でしょう。1995年はWindows 95が発売され、パソコンからのネット接続が容易になった年です。インターネットは異なる種類の多様な表現や知識をデジタルデータという共通の状態にカングンすることで、情報の流通を著しく便利にしました。かつては別々のメディアによって支えられ、各々異なるかたちでわれわれの思考や感性を作っていたさまざまな知識や文化表現は、90年代なかばを境としてデジタルデータのかたちで一括して扱われ、消費される傾向が進んでいくことになります。

「コンテンツ」という概念は、知識や表現の質的な違いよりも、それが「ひとかたまり」の情報として同等に扱えることを強調します。書物と放送番組が同じく「コンテンツ」であると名指されるようになると、それを評価する観点もまた似通ってきます。かつては、書物とテレビ番組は別のメディア、別の世界、別の価値基準に属するものでした。テレビ番組であればそれは速報性によって評価され、書物であればそれが人間の知性にどのように深い影響を与えるかにより評価されました。

しかし「コンテンツ」として同一のスマートフォンで視聴される対象になれば、その区別はユウカイしていきます。「面白いか」「泣けるか」「笑えるか」。あるいは送り手にとっては、そのコンテンツがどれだけ「売れるか」。異なるメディアに隸てられ、異なる基準により評価されていた知識や情報や表現は、今や横並びに測られるようになりました。

かつては、知識とはそれとの長い格闘の末に身につけるものでした。それが「コンテンツ」と呼ばれるようになってから、教育の

あり方も変化したように感じます。何かのために必要な知識は、どこかに「コンテンツ」として存在しており、必要ならそれを見つけて「アクセス」しさえすればいい、という感覚が、学生や社会に浸透したように感じます。

先に触れた、「カリギュラム通りに学生をしつかり勉強させる」ことを目指した大学「改革」の背景にあった考え方は、私の考えでは、知識や能力を「コンテンツ」としてとらえる考え方です。学費を払った分に見合うだけの知識や能力が得られる場として、つまり、「知」を商品のように取引するような場へと大学は変化させられました。
しかし、大学教育は「コンテンツをインストールする」ことは本質的に異なります。皮肉なことに、コロナ禍によって大学に通えなくなり、「オンライン授業はうんざりだ」、「早く大学を再開してくれ」と声をあげる学生たちこそが、そのことに気づきつつあるのかかもしれません。

教育内容=「コンテンツが、オンライン授業のかたちで学生に伝達されている現在の大学の状況は、いわば（政府が、あるいは社会が理想とした）「勉強に純化された大学」です。授業と授業の間の移動時間や、友人との雑談や、サークル活動などといった「勉強と直接関係ない」要素をすべてハイジョード³した、純化された「知識コンテンツのインストール」に多くの人々が不満を漏らしている。この事実は、勉強以外の無駄なことがむしろ大学の本質であったことを示しているのではないでしょうか。

いえ、もうと強く言いましょう。「大学は勉強するところではない」のです。

大学とは「学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探求して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与する」（教育基本法第7条）と定められている制度です。「新たな知見を創造し」というところがポイントです。大学とは「まだ存在しない知」を生み出すところがその存在根拠なのです。

つまり大学とは、知識を商品のように学生に売るところではありません。また、知識を持った「人材」を育成して企業に送り出すためのところでもない。そうではなく、大学とは、一人一人の学生の知的成長を促すための場所や機会を提供することで、社会にとって必要な知をイジり、そこから新しい知を生産するための場です。

それはハードディスクにソフトウェアをインストールする」とよりも、公園で子供たちが「X」して遊んでいる状況に似ています（教員や図書館は「ジャングルジム」のような遊具に似ています）。その「使い方」に定まつた決まりはありません）。「知」とはデジタルデータではなく、身体と感情を持った人間一人一人が身につけ、実践し、対話し、試行錯誤する中でしか「役立たない」。大学とはそのために用意された場です。新型コロナウイルスが社会にもたらした「良い影響」がもしかつたとするならば、ただオンラインで勉強だけする」とが「大学の学び」ではない、となることに入々が気づいたことではないでしょうか。

「コロナ禍がわれわれに教えた」とは、このような経験したことのない難局に対するために必要な知とは、すでに誰かによって形作りパッケージされている「コンテンツ」ではない、という簡明な事実です。われわれはメディアで発言する専門家の意見の「食い違い」を日常的に耳にしています。ある専門家は「PCR検査を拡大すべきだ」と主張し、別の専門家は「無闇な検査は控えるべきだ」と言ふ。あちらの専門家は「いち早く都市をロックダウンすべきだ」と言ふ、こちらの専門家は「経済への悪影響を考えるべきだ」と言ふ。

われわれは「」のコロナ禍を解決してくれる解決策がどこにあるはずだ、と信じたい。しかしそんなものは「まだ」どこにもない。コロナ禍を乗り越える知見はコンテンツとしては「まだ」存在していないのです。それは身銭を切つて必死に考え、調査し、研究している「誰か」がこれから生み出す「かもしれない」ものです。それを担うのが「知」の仕事であり、大学の仕事なのです。

コロナ禍に限りません。何であれ「問題を解決すること」の確かな道筋は、どこかの誰かが出来合いの答えとして示してくれるわけではありません。それは最終的には、自分の知性をもとに、自分の責任と判断で、自分自身で選び取っていくしかないのです。

(増田聰「[大学の学び]とは何か——『人生すべてがコンテンツ』を越えて」による。

内田樹編『ポストコロナ期を生きるきみたち』所収。一部改変)

【語注】

(注1) ウィンドウズ95 … 米・マイクロソフト社から発売されたパソコン用のシステムソフトウェア。一般家庭にパソコンが普及するきっかけとなつた。

(注2) インストール … コンピュータにソフトウェアを導入し、使えるようにすること。

問1 「重傍線部a～eのカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。(楷書で、丁寧に書くこと)

問1 「傍線部」「それを評価する観点もまた似通ってきます」とあるが、「書物と放送番組」を「評価する観点」が「似通つて」くるのはなぜか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア これまで書物は情報の影響力が評価され、放送番組は情報の速報性が評価されていたが、スマートフォンの普及によって影響力を持った情報が速報性を持つて提供されることになり、両者の区別がなくなつたから。

イ 時代の変化に合わせて書物も放送番組も似たような「コンテンツ」を紹介するものになつてしまつたため、結局のところ、ど

どちらも同じ情報を伝えていたるメディアにすれども、評価を区別する必要がなくなったから。

ウ スマートフォンなどのデジタル機器が普及していくとともに、書物や放送番組はその売り上げや視聴率が下がっていくたとて
われる」ともあり、「どちらもデジタルデータと比較して語られる同じような存在になったから。

エ どちらか一つの情報のまとまりにすぎないとみなされるようになつた書物や放送番組が、同じ装置によって視聴されるようにな
なる」と、「どちらかにそれを消費していくかという観点で語られるようになるから。

オ 本来、書物や放送番組は大切な情報を人々に伝えるためのものだったが、「どちらもエンタテインメント性が重視される「コン
テンツ」になつたため、どのくらい人々を楽しませるかが評価の基準となつていつたから。

■III 傍線部2 「教育のあり方も変化したように感じます」とあるが、筆者は現在の「教育のあり方」をどのように捉えているか。そ
の説明として最も適切なもの次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 現在の教育のあり方は、何かをするうえで必要とされる知識は売り物にすぎないという考え方のあと、払ってもらつた学費の分
だけ学生にその知識を提供するものだと捉えている。

イ 現在の教育のあり方は、問題を解決するために必要とされる知識はすでにどこかに存在しているところの考え方のあと、その知識
を学生に身に付けるせよとするものだと捉えている。

ウ 現在の教育のあり方は、スマートフォンぐと統一されていくといふ考え方のあと、必要な知識を覚えさせ
るのでなく探し出せるようにするものだと捉えている。

エ 現在の教育のあり方は、勉強に関係のないことは不確定要素が多く一切必要ないといふ考え方のあと、カリキュラム通りに学生
をしつかり勉強させる」とを田舎したものだと捉えている。

オ 現在の教育のあり方は、利便性の高いデジタル機器が社会に浸透してきていくところの考え方のあと、オンライン授業を通じて社
会に求められている知識を伝達していくものだと捉えている。

問四 傍線部3 「『大学は勉強するところではない』のです」とあるが、これはどういふことを意味しているか。五十字以内で説
明せよ。

問五 空欄 X に入る四字熟語として最も適切なものを、次の【語群】の中から一つ選び、漢字に直して答へよ。

【語群】

イチネンホッキ・ウォーサオウ・ギシシャンキ・ソウイクフウ・フワライドウ

問六 大学で学ぶ「知」とはどのようなものだといふか。本文全体をもとめて、九十字以内で説明せよ。

問題は次のページに続きます。

二 次の文章を読んで、あるの間に答へよ。

110-1年3月十一日、東北地方太平洋沖地震が発生した時、私は京都の自宅にいた。長い滞れが数分つき、底知れぬ不安を感じたことをおぼえている。しばらくすると、津波がまちを破壊していく映像がテレビでくり返し放映された。おそらく軽度のトラウマを負つたのだろう。その日以来何も手につかなくなり、テレビや新聞をただ眺める日々がつづいていた。

これでは何もできないので、一週間ほどして私と妻は被災地にボランティアに行くことを決めた。四月に入ると被災地でもガソリンの補給が可能になったというので、車にテントと寝袋、着替えと食料を積み、娘も加えて三人で出発した。どこへ行くか。ボランティアの少ない岩手県に行くことを決めたが、岩手県でボランティアを受け入れていたのは大槌町だけだった。

大槌町の社会福祉協議会に向かうと、まちは津波と火災で破壊されて、残っている建物は一軒もなかつた。ネットで調べた所在地に行くと、社会福祉協議会は体育館の横に張られたテントであつた。中にはホワイトボードと長机と電話機が一台置かれ、それがすべてであつた。ボランティアに来た旨を伝えると、津波によって破壊された家々から流出した写真や書類の整理と清掃を依頼された。その仕事をしながら、合間に食料を配給するNPO職員について他の避難所を訪れるなどして一週間を過ごしたのだった。

いつたん関西に戻り、五月の末に一ヶ月の予定で大槌町を行つた。ちょうどその頃、町の若手有志が「大槌復興まちづくり住民会議」を立ち上げ、全町で集会を計画していた。最初の集会に出席して自己紹介し、彼らの作業を手伝うこととした。私は他所でまちづくりの手伝いをした経験があつたので積極的に参加した。集会の開催を告げるビラを作つて避難所や家々を回り、集会時にはすべての発言を記録した。熱心にしゃべる人がいればメモをして、あとで話を聞きに行った。経験されたことを聞かせて下さいなどいうと、心のなかにたまつていたものがあつたのか、多くの人が堰aを切つたように話してくれた。

話を聞いた方のなかには身内を亡くした方が何人もいたが、もつとも痛ましいのは子を亡くした方々だつた。ある女性は、親元に留まるために大槌町役場に勤めていた娘さんを津波で亡くしていた。「なんで私だけ助かつたんだろうね。私が代わりに逝つたらよかつたのに」。会うたびにそう口にしていた彼女の顔は今でも覚えている。別の方は、隣の釜石市が避難場所に指定していた施設で津波に巻き込まれ、つないでいた二人の子どもの一方の手が離れて行方不明になつていていた。半狂乱になつていた彼女は、いつか避難所から姿を消していた。

大槌町の震災前の人口は一五二七七、うち死者行方不明者が一二八一（110-1年六月）であり、ほぼすべての町民が家族や親せき、友人を亡くしていた。私が震災後のこの町で出会つたのは、傷ついた人ひと、傷つきやすい状態（vulnerable）におかれたりび

とであった。そのような人びとに私は調査者として接することはできなかつた。まちづくりの経験と知識をもつ支援者として、そして自己を傷つきやすい状態に置くことで他者の話を聞く経験を積んだ人類学者として、彼らに関わつていつた。

人類学者のフィールドワークは、他の学問分野の調査のように質問票を携えて行なうわけではない。人類学者は、比喩的にいえば素手で、剥き出しの状態で他者に出会い、話を聞き、それによって他者を理解しようとするのである。剥き出しの状態で他者に接することをフランスの哲学者エマニュエル・レヴィナスは「被傷性」と呼んだが（翻訳では「可傷性」となつてゐるが、これでは意味が通じない。加害と被害はあるが、可傷という言葉はない）、ある人類学者の仕事が良いか否かは、すべてこの他者との出会いの質に拠つてゐる。他者に心を開いてもらおうと思ったら、まずは「からだ」をさらけ出さなくてはならないのであり、そうしてはじめて他者を理解することができる所以である。

地震の直後にくり返しまでを襲つた津波は大槌町の多くの人びとの命を奪い、心中深い傷を残していたが、その象徴といえるのが破壊された町役場であった。海のすぐ近くに建てられていた役場は、二階建ての建物の屋上まで津波が達し、一四六人の職員のうち、町長と全課長職員を含む四十名の命を奪っていた。無残なかたちで残るその建物を保存するか、あるいは解体するか。その問題は町を二つに割る争点になつてゐた。

二〇〇一年八月に選ばれた新町長は役場の保存を訴えたが、町議員の大半は解体を望んでいた。町役場が二〇一二年十月におこなつたアンケートによると、四〇人の遺族のうち保存が三十八%、解体が六十二%であり、現役の役場職員へのアンケートでは保存が二十一%、解体が七十九%であつた。私が個人的に話を聞いた町の人びとの反応もほぼおなじであり、保存に賛成するのはおよそ四人に一人の割合であつた。「見るのが嫌だ」「見るといらなくなる」「これを見光資源にはしてほしくない」、こうした否定的な意見が多かつたのである。

サバイバーズ・ギルトという言葉がある。二〇〇一年のニューヨーク世界貿易センタービルの同時多発テロ事件や、二〇〇五年の福知山線脱線事故のときに話題になつた言葉であり、生存者が自分の仲間の死に対してもできなかつたことを悔悟し、深い無力感に悩まされる状態のことである。おそらく大槌町の人びとはこの感情にさいなまされていたのであろう。そうした彼らに向かつて、²役場を保存しましようなどと囁くことはできなかつた。彼らに受け入れられる言葉を見つけなくてはならないと思つたのである。

町民にとっての痛ましさの象徴である役場を残すには、何らかの配慮がなくてはならない。そもそもれば、それを見る町民の多くは心の傷を新たにし、必要のないトラウマを新たに背負うことになるだろう。そう考えたので私は町長や教育委員会の課長に掛け合つて、トラウマを生じさせないような枠組み（この場合は展示を想定していた）を併設することの必要性を強調した。一方、町の側で

も、死者を悼み、津波の経験を将来に伝える施設の必要性を感じていた。図書館を含む複合施設が破壊された役場のすぐ脇に建設されることになり、その一角に展示場が作られることになった。私もその立案に協力したが、それに加えて、国の博物館に勤務する人間として展示の制作に尽力したいと思ったのである。

展示の構想を練るにあたつていくつか考えたことがあった。第一点は、震災の展示にはしないことである。もし震災の被害を強調したなら、展示としてのインパクトは強くなるだろうが、それが町民に受け入れられるとは思えなかつた。そのような展示は、人びとが忘れないと願つて記憶を想起させ、トラウマを生じさせる危険があるだろうからである。

私が着想したのは、震災前から震災後にいたる人びとの暮らしを一続きのものとして再現することであつた。津波は人びとの暮らしを破壊したが、彼らは破壊に任せることではなく、いくつかの地区では自主的に立ち上がり、被災者同士が助け合うことでそれに立ち向かっていた。そのことを伝えることができたら、町の人びとも勇気と将来に向かう気持ちを奮い起こすことができるのではないか。しかも、被災後に助け合いが生じるためには、被災の前に横のつながりができていたはずである。私が展示でつくるとしたのは、震災の経験を突出させるのではなく、それを含めた大槌町の人びとの経験と生き様を一続きのかたちで示すことであり、それを私が提示し、町の人たちと協議しながらつくり直していくことを考えたのである。

しかし、そのような構想を実現するには問題があることがすぐにわかつた。市街地のほぼ全域が破壊された大槌町には、過去を示す手がかりとなるモノが失われていたし、津波前の町の姿をあらわす写真も存在しなかつた。そのため私は津波前の町を写した写真を集め、残された資料を再点検することから始めなくてはならなかつた。私はさまざまの人をたずねて震災前の写真を求め、過去の写真を集めて展示会を開催して、古い写真を提供してくれるよう呼びかけた。また、大槌町には民俗資料館を建設する計画があり、集めた資料が数か所に保管されていたので、その写真を撮つてカタログを作つた。それらをもとに私が勤務していた国立民族学博物館で展示を作成し、それを丸ごと町に寄贈しようと考えたのである。

国立民族学博物館での展示は「津波を越えて生きる——大槌町の奮闘の記録」と題して、一〇一七年の一月から四月まで行なわれた。その中身は大きく四つのパートからなつていて、まず、がれきで簡単なインスタレーションを作り、その上に津波のビデオと津波直後の町を写した写真を投映することで津波の破壊の威力を示した。ついで、町の人びとが地震の直後にどこでどのような経験をしたかを、彼らのことがんをインタビュー映像を通じて再現しようとした。第三のコーナーでは、震災の直後にどのような助け合いがあつたかを時系列に沿つてたどることで、町の人びとの自主的な動きを示そうとした。と同時に、津波前と津波後の地区の模型を作ることで、そうした視点を支えることを試みた。そして最後に、津波の前にどのような人びとの暮らしがあつたかを、写真と民俗資料を通じて再

現しようとしたのである。

この企画展は好評であったが、これを大槌町に寄贈するところの初の計画は断念せざるをえなかつた。1101五年の町長選で現職があれ、新町長が選ばれたためである。新町長はすべての復興計画の見直しを行なうことを公約に掲げており、前町長による役場庁舎との保存の方針を撤回すると同時に、文化複合施設の設計を廃棄させた。その結果、十分な展示スペースも設けられないこととなり、私の展示は行き場を失つたのである。

私はそれ以前に、たまたま行つたバルセロナの市立美術館^(脚注)『ジャネット・カーディフとジョン・ヘルス・バーの《The Killing Machine》(11007)』を目にしたことにあつたが、それを始めた彼女たちの創造のテーマは「被傷性」である。ふつうにやむだらけ。私たちはおおむね規則や約束事にしたがつて日常の生活をおくる。仕事をし、人と会い、買い物をし、明日の期待と苦を抱えながら日々生きてくる。しかし、そうした日常の皮一枚めぐれば、そこにあるのは寄る辺のない、傷つきやすい血肉である。カーディフのがくり返しそれを表現するにこだわるのは、危うい日常の陰に潜む残酷な生の現実を示したいと願つてゐるからに違ひない。そして、彼女にかぎらず、均衡にではなく、日常意識を打ち破つてくれるものにアートの存在理由を求める傾向は増えてくるのである。

ひまわりに痛ましさを示す破壊された役場の横に、その出来事をともに生き、それに抗うかたちで震災後を生きてきた人びとの経験を示す展示を置くこと。それは町の人にとっては、過去の苦い記憶を軽減してくれる手がかりになり、外から来る人にとっては、彼らの経験を丸ごと理解するための媒体になってくれるのではないか。⁴ 私の企ては実現できなかつたが、そのコンセプトは間違つていなかつたと考へてゐる。それが実現できたなら、大槌町の人びとの震災の経験を伝えるだけでなく、生きることが不思議なく背負う痛ましいところ人間の根源的な経験の一端を提示できたのではないか。

(竹沢尚一郎「東日本大震災の記憶の伝承——被傷性の展示を行なう」と) はじめ。WEBサイト『artscape』掲載。一部改変)

【語注】

(注1) ルラウマ … 災害や犯罪などを体験する上で精神に強い衝撃を受けてしまひ、その後、長い間に渡つてそれを経験せねりと。心的外傷とも。

(注2) インスタレーション … 博物館や美術館の一室にオブジェなどを設置する上り、その部屋全体を鑑賞対象とする上り。

問I 一重傍線部 a 「壊を切つたように」・b 「寄る辺のない」の意味として最も適切なものを次の中から選べ。記号で答えよ。

a 「壊を切つたよつた」「

b 「寄る辺のない」

- ア 口早にせきたてられるように
イ いらえていたものがあられるように
ウ 邪魔していたものがなくなつたように
エ ようやく話す機会を得られたように
オ 悩んだうえで決心したように

- ア 現実味のない
イ 行く当てのない
ウ 思いやりのない
エ 頼るものない
オ 楽しみのない

問II 波線部 A 「復興」・B 「配慮」・C 「勤務」・D 「残酷」の熟語の構成として最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。同じ記号を使ってもよい。

- ア 同じような意味の漢字を重ねたもの。
イ 反対の意味の漢字を重ねたもの。
エ 上の字が下の字を修飾しているもの。
オ 下の字が上の字の目的語や補語になつてているもの。

問III 傍線部1 「そのような人びとに私は調査者として接する」とはできなかつた」とあるが、どう云ふことを意味しているか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 被災した人々に対し、自分の主觀的な思い込みを持つて対応をすることなく、客観的に状況を判断したうえでの対応を心がけて支援していくことと考へたといつこと。

- イ 被災した人々に対し、相手の辛い思いを「わから聞くん」とは一切しないで、自分のことを話していくことと相手から語り出してくれるのを待とうと考えたといつこと。

- ウ 被災した人々に対し、哀れみを感じながら質問をすることは決してせず、同じ立場に立つて対話をする上で被害状況などの情報を得て助けていくことと考へたといつこと。

- エ 被災した人々に対して、一方的に聞き取りを行うのではなく、まずは自分の弱い部分をわかつてもうかながら相手のことを教

えてもらつて支援していくことと考えたということ。

オ 被災した人々に対しても、学者として調査の対象として見るのではなく、まちづくりの専門家として被害を受けた分の支援をすることを最優先に対応していくことと考えたということ。

問四

傍線部2 「役場を保存しましようなどと言うことはできなかつた」とあるが、それはなぜか。八十字以内で説明せよ。

問五

傍線部3 「震災前から震災後にいたる人びとの暮らしを一続きのものとして再現すること」とあるが、それはどういうことか。

その説明として最も適当なものを次のの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 震災によって大きな被害を受けてしまつたが、それでもそこに住む人々は震災前と少しでも変わらない生活を営もうと奮起しているということを伝える展示をつくるということ。

イ 震災以前には想像もできなかつた出来事が実際に起きてしまつたことや、それでも人々はあきらめずに町の復興をしようと立ち上がりたことを伝える展示をつくるということ。

ウ 震災中の記憶ばかりを展示するのではなく、震災前から作られていたはずの人と人との関係性や、その関係性が震災後の合いを生んだことを伝える展示をつくるということ。

エ 震災前の日常風景を展示するとともに、震災後に一人ひとりがそれを取り戻そうと努力する姿を展示することで、町の人々を奮い立たせ、協力を促す展示をつくるということ。

オ 震災中の辛い出来事にはまったく触れず、震災前の人々の生活と震災後の人々の生活のみを紹介することで、人々の辛い記憶を呼び起こさない展示をつくるということ。

問六

傍線部4 「私の企ては実現できなかつたが、そのコンセプトは間違つていなかつたと考えている」とあるが、筆者が「そのコンセプトは間違つていなかつた」と述べるのはなぜか。それを説明した次の文の空欄に入る言葉を七十字以内で答え、文を完成させよ。

筆者の計画していた破壊された役場と震災後の人々の経験を併設する展示は、七十字以内と筆者は考えているから。

III 今御は、堀河天皇御の歌しみが戀へて、^{かみがめ}御歌を歌ひた堀河天皇の歌ことおもての口々を送つてこた。なんなか、幼い堀河天皇仕合ねむはなべはなりはべりた。これを讀とぞ、おとの語ことおもて。

つれづれなる風つかた、ぐらぐやのかたを見やれば、御経教へさせたまふとい、「読みし經を、よべしたためて、取らせん」とおせられて、御おひなひのつぐに二間にて、たちておはしまして、したためせたまひて、つぼねにおりたりしに、御経したためて、持て参りて、笑はれん、とい、おほしめして、あまつなるまでかしづかせたまひし御」とは、思ひこだいらるむに、おまくにおはしあして、「われいだきて、障子の絵見せよ」とおほせらるれば、よひづむるといわすれど、朝餉の御障子の絵、御覽せられりくに、夜の御殿のかぐに、明け暮れ田なれておほえん、とおほしたりし樂を書かて、おじつけやせたまへりし笛の譜の、やされたるあととの、かべにあるを、見つけたるや、あはれる。

笛のねのおわれしがぐのあと見れば過ぎにしことは夢とおぼゆ

かなしくて、そでを顔におしあつるを、あやしげに御覽されば、心えわせまるらせじとい、「あべびをせられて、かく田に涙のうきたる」と申せば、「みな知りてやるゆる」と、おほせらるむに、あはれにもかたじけなくもおほえられせたまくは、「こかじしらせたまくゆる」へ申せば、「ほ文字のり文字の」と、思ひこだたるなめり」とおほせらるれば、堀河院の御いといよへておわれせたまくは、い題あるか、うつへつゝて、あはれめおぬゆいいかじて、おもる。

(「讀歌典傳田記」下 さむる)

【翻注】

(注1) ぐらぐや : 天皇の住まいにありた船廬の名。

(注2) 朝餉 : 天皇が駕籠の食事をとする所。

(注3) 夜の御殿 : 天皇が夜やすむ船廬。

問一 波線部A 「おほせらる」・B 「思ひこだらる」・C 「ねこひかやせたまく」・D 「おほせらる」の主體(主語)は誰か。最も適切なものを次の申からせられ 一つずつ選ぶ。福寺で答へよ。

ア 堀河天皇 イ 鳥羽天皇 ウ 作者

問一 傍線部1 「おほしめし」について、堀河天皇が思った内容はなんいか。最初の四字を抜き出せ。

問二 傍線部2 「あまりなるまでかしづかせたまひし」・8 「わいへしつて、あはれもさぬぬいじかしつて」の現代語訳として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

2 「あまりなるまでかしづかせたまひし」

ア あまりにも悲しい最期を遂げなさった

イ 持ちきれないほどの経を差し上げた

ウ 身にあまるまでのお扱いをたまわった

エ この上なく心をこめてお仕え申し上げた

オ びっくりするほど大人びていらっしゃった

8 「わいへしつて、あはれもさぬるじこわして」

ア いじらしくて、眼氣も覺めでしまつた気持ちがして

イ じきかしくて、思い出が冷めてしまつた気持ちがして

ウ 美しくて、部屋の風情も薄れてしまつた気持ちがして

エ すばらしくて、わだかまりも解けてゆく気持ちがして

オ かわいらしくて、悲しみも晴れてしまつた気持ちがして

問四 傍線部3 「よみうりむるいじか」とはどういう気持ちか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 堀河天皇との思い出がすっかり冷めてしまつた気持ち。

イ わがまますぎる命令を腹立たしく思う気持ち。

ウ それまで感じていた風情が台無しになる気持ち。

エ 無理に目覚めさせられたことを不快に思う気持ち。

オ 富仕えを再びする気力がすっかりなえてしまつた気持ち。

問五 傍線部4 「あはれなる」・フ 「あはれに」の本文での意味として最も適切なものを次の中から選べ
べよ。

4 「あはれなる」

ア 気の毒だ
イ 感無量だ
ウ 幸運だ
エ うれしい
オ 不吉だ

7 「あはれに」

ア 趣深く
イ かわいそつに
ウ 悲しへ
エ いじらしへ
オ 恋しく

問六 傍線部5 「やでを顔におしあつる」とあるが、作者はなぜそうしたのか。十字以内で説明せよ。

問七 傍線部6 「わらびなくもてなし」とあるが、作者はなぜそうしたのか。十字以内で説明せよ。

2022年度 西大和学園高等学校入学試験

国語解答用紙

受験番号	氏名

*の欄には何も書かないで。

題I	a	b	c	d	e
題II	A	B	C	D	*
題III	I				
題IV	II				
題V		題VI			
題VI					
題VII					
題VIII					
題IX					
題X					
題XI					
題XII					
題XIII					
題XIV					
題XV					
題XVI					
題XVII					
題XVIII					
題XIX					
題XX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					
題XXX					
題XXI					
題XXII					
題XXIII					
題XXIV					
題XXV					
題XXVI					
題XXVII					
題XXVIII					
題XXIX					